

# 企業ヒアリング結果報告

2012/10/17

新横浜ITクラスター交流会  
実行委員会幹事会

# 1 調査の概要

## 1 目的

新横浜ITクラスター交流会(以下「交流会」)をこれまでの会員企業に加え、周辺のベンチャー企業などにとってもメリットと魅力のあるイベントへと再構築するために、交流会参加企業、大学のなかから対象を抽出し、交流会のあり方に対する意見等についてヒアリング調査を実施した。

2 実施期間:2011年7月14日(第34回交流会)～2011年12月

3 実施主体:新横浜ITクラスター交流会ワーキンググループ(WG)

4 ヒアリング実施企業等(1大学、17社:内訳は以下のとおり)

- ・大企業1社(設計開発)

- ・中小企業5社(設計開発3社、商社1社、外資系機器販売1社)

- ・ベンチャー企業11社

(設計開発6社、システム開発3社、コンサルティング1社、商社1社)

5 ヒアリング結果

ヒアリング企業の「主な意見」とWGによる「分析」、「改善提案」は以下のとおり

# 2 交流会のあり方について

## (1) 第一部基調講演

### ○主な意見

- 基調講演は、良い演題であれば聴講するようにしている。今後も、集客できるような講演を望む。
- 第一回から参加している。最近は毎回は出ていない。メールのニュースは見ており、基調講演で参加するかどうかを決めている。
- コンティニューアや桜新町クリニックの講演は良かった。

### ○分析

- 講演テーマ、講演者を見て参加するかどうかを決めている人が多い。
- 基調講演は交流会の顔であり、集客できるテーマ、講演者をタイムリーに企画することが必須。

### ○改善提案

- 講演テーマの年間計画を立てる。
- 例えば、年間4回のテーマを決め、半年毎にローリングして見直す。  
▶ 37回「アンドロイドの新潮流」、38回「新しい産学連携に向けて」、39回「エレクトロニクス技術の成長分野への応用」などで試行。

# 2 交流会のあり方について

## (2) 企業プレゼン

### ○主な意見

- 企業プレゼンがつまらない。
- 同業者にプレゼンを行ってもせつかくの開発の成果を公表することになるので、あまり行いたくはない。
- 企業プレゼンは新しい技術の動向が解り、参考になる。
- 交流会のプレゼンを見たといって、大手メーカーから電話が入った。

### ○分析

- 会社プロフィール、開発動向を知るうえで大変役に立つという意見と、同業者の話を聞いてもつまらないという、ネガティブな意見の両端があった。

### ○改善提案

- プレゼンの目的を「紹介」、「販路開拓」、「共同開発」、「受託企業探し」などの区分を決めておき、それに沿った資料作りを求める。

➡ 37回以降、基調講演のテーマに合った企業プレゼンを実施。

# 2 交流会のあり方について

## (3) 第二部交流会(その1)

### ○主な意見

- 古手の人達同士が話している印象があり、初参加の人は入り込みにくい。
- コーディネータがないので、だらだらした飲み会になってしまっている。
- 初参加の人を全員に紹介したり、融けこみやすくする必要がある。
- 若い人同士を互いに話し合わせる仕組みを考えないと、新しいものは何も生まれません。
- 第二部も人脈づくりには役立っている。一人でぼんやりしていると誰かしら声をかけてくれるので、あまり困ったことはない。
- シリコンバレーのブレックファストミーティングのように気楽に繋がれる交流の場みたいなものがあったらいいと思う。
- 酒が飲めないせいもあるが、2次会で議論できるような場があると良い。

# 2 交流会のあり方について

## (3) 第二部交流会(その2)

### ○分析

- 古手の人達同士がつるんで話している印象があるので、初参加の人は入り込みにくいという意見が多かった。
- 「人脈作りに役立つ」という意見と「あまり役に立たない」という意見があった。
- 若手を主体に参加、交流させ、彼らが新しいものを生み出す手助けをしてあげるべきという意見があった。
- 少人数でもっと気楽に深く交流したいという意見があった。(例: ブレックファストミーティング)
- 酒を飲めない人に対する配慮も必要。

### ○改善提案

- 初参加の人をアテンドする担当を新規に置く。WGメンバーが初参加の人を全員の前で紹介したり、話したい人を紹介する。

➡ 37回以降、試行中です。引き続き、工夫します。

# 2 交流会のあり方について

## (4) 不満な点(その1)

### ○主な意見

- HPをもっとわかりやすく、魅力的に改善したり、更にはfacebookに載せられるようなコンテンツを工夫したりすべき。
- マッチング機能を強化できないか。大学、ベンチャー企業へのアプローチは仲介者がいるとお互いに安心感が生まれ、うまくいく確率も高い。
- センサネットワーク等のテーマを決めて、様々なアプリケーションについてアイデアを出し合うような機会がつかれないか。
- マンネリ化している。参加している企業が、仕事をもらうために来ているような印象がある。受け身の企業の集まりでは新しいものは生まれない。

### ○分析

- 全体に対する不満というより、ホームページ、機会創出や産学連携、プロジェクト化が不十分であること等、企業の個別の関心事項についての意見が多かった。意見の言いつ放しもあるが、何らかのカウンター提案を出してくれた企業もある。

## 2 交流会のあり方について

### (4) 不満な点(その2)

#### ○改善提案

##### ・ホームページ

改善を望む声が多く寄せられたので、これを機会に見直して改善する。

➡ 現在、検討中。

##### ・マッチングサービス

大学やベンチャー企業にアプローチする場合、交流会が仲介者になれば安心できるという声があるので、最初のつながりだけでも支援するようなマッチングサービスを横浜市経済局と連携して行う。

➡ 39回交流会では、IDECの研究会との連携を提案。

##### ・大学とのコラボ

医療分野は、大学の先生が仕切っていて、そこに医療機器関連のメーカーが集まる構図がある。横浜市経済局と連携してこうした大学の先生とか、産学連携本部の人に講演してもらったりして大学とのコラボを推進する。

➡ 38回交流会では、東工大などとの連携を提案。



## 2 交流会のあり方について

### (5) 満足している点

#### ○主な意見

- 同業種、異業種の人、キャリアのある人たちと人脈を構築できるのは大変良い。情報交換の他に業務委託をしたりされたり、得るところが多い。
- 定期的に地域のIT業界(特に、LSI関連)の方が集まる機会、行政も交えて情報交換が出来る。技術交流、ビジネス交流の面で、活用できる。IT業界以外、新横浜地域以外の参加も多く、情報源が幅広い。
- 東京では学会や年一度の大きなイベントはあるが、半導体・IT関係者がこれだけ集まるイベントはなく、人脈ができるなど大変貴重な機会だ。

#### ○分析

- 本IT交流会のようにこれだけ多くの半導体・IT業界の人達が業界内外を問わず、新横浜内外を問わず集まって、行政も含めて幅広く技術交流、ビジネス交流ができて、「場」は他に例を見ない。マンネリ打破、改善は必須であるが、「本来の良さ」を自らが忘れることなくさらに磨いてステップアップすることが求められている。

# 3 交流会の今後について(提言 その1)

## (1) 交流会発足の理念

「本交流会のように、これだけ多くの半導体・IT業界の人達が業界内外を問わず、新横浜内外を問わず、集まって行政も含めて幅広く技術交流、ビジネス交流ができて『場』は他に例を見ない」というコメントをいただいた。これは交流会発足の理念が、形としては出来上がっていることを示している。我々は、ややもすると交流会のこの「本来の良さ」を忘れがちである。交流会活動の中で発足の理念を会員にリマインドしてもらうような働きかけが必要である。

## (2) 交流会の継続

交流会の理念、本来の良さも、日々改善に取り組み、ステップアップの努力をしないと維持することは難しい。半導体・ITにとって逆風の今こそ交流会を継続・進化させてゆくことが会員企業から期待されている。こうした期待を裏切ることなく、交流会当事者は組織運営してゆくべきであると考えます。

## 3 交流会の今後について(提言 その2)

### (3) 対象分野の見直し

半導体業界は今いろいろな課題に直面している。半導体はもう終わったと言う人もいる。しかし、見方を変えれば半導体には新たな将来性(活躍の場)が開かれている。

ネット接続、システム対応、環境、健康・医療など産業分野を切り口とする新規事業分野がそれである。こうした時代性をいち早く取り込み、交流会に反映させる機動力と実行力が交流会当事者には求められている。これに対応できる新しい組織と役割分担を早急に見直すべきであると考えます。

### (4) ベンチャー企業育成

今回のヒアリングでは、活気のあるベンチャー企業から様々な前向きな意見、コメントをいただいた。今や半導体・ITはインターネットを切り口とする端末、システム、及びICTサービスを梃子として早期に再活性化を図らないと、もはや持ちこたえられない。従って交流会当事者は、こうしたネット関連技術、ビジネスを得意とするベンチャー企業の支援を強化し、その若い活力を交流会に吹き込んで互いに飛躍するような施策立案をすべきであると考えます。

以上のように、ヒアリングでいただいた貴重なご意見を踏まえて、「改善提案」を順次、実行しつつあります。

また、後半の「提言」部分は、幹事会、事務局、WG、行政など交流会運営当事者に向けたメッセージであり、今後も、関係者一同、その趣旨を踏まえ、皆さまの期待にこたえられる交流会運営に努めてまいります。

引き続き、よろしく申し上げます。